



# 東海道ルート

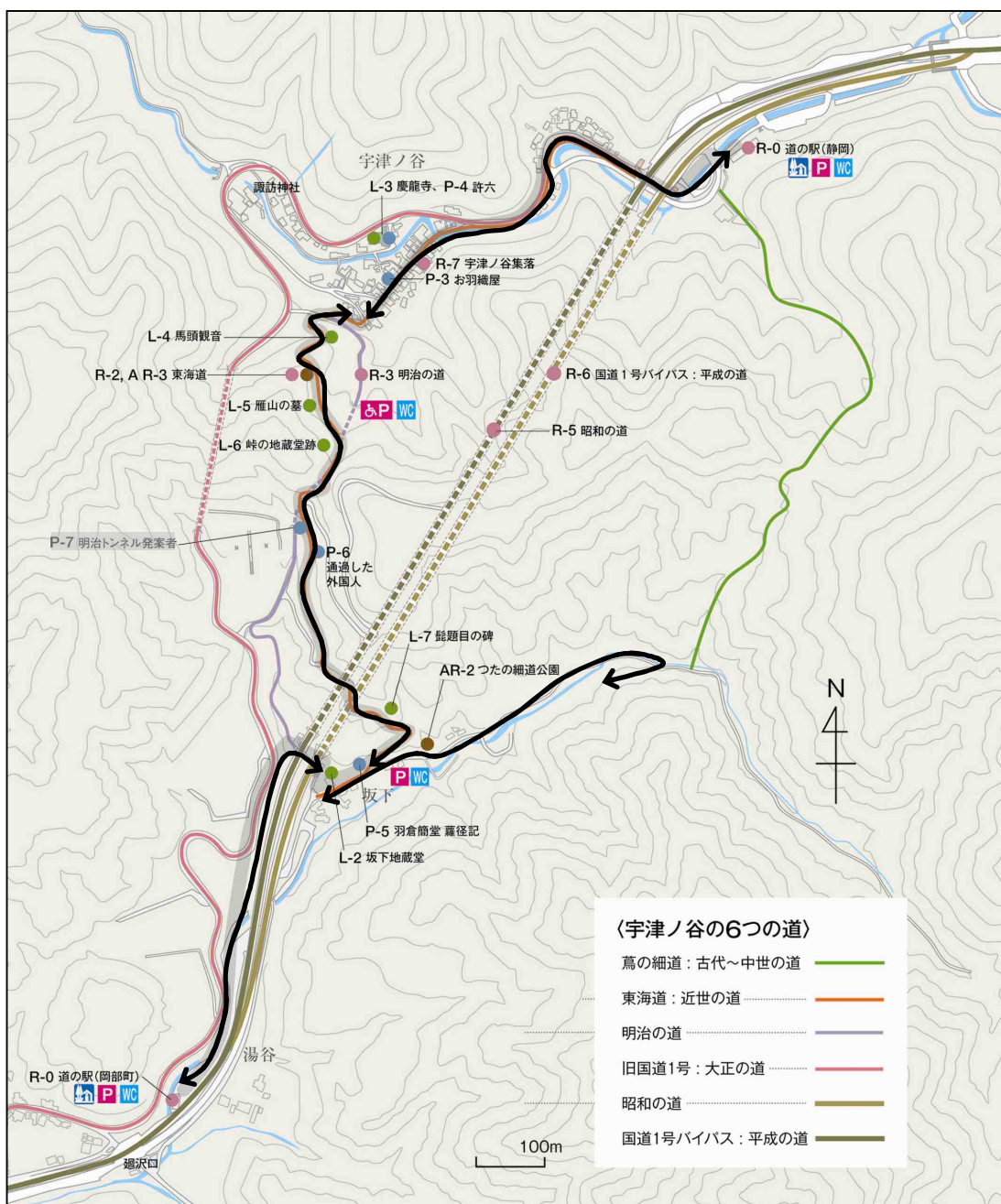
解説  
マップ

R - 0 道の駅(静岡市)入口	550m	R - 6 宇津ノ谷集落(慶龍寺・他)	450m	R - 2・A R - 3 東海道
400m	峠	600m	A R - 2 つたの細道公園	500m ~
			L - 2 鼻取地藏	400m
			R - 0 道の駅(岡部町)	
				Total : 約 2900m ~

1590年秀吉によって整備された道は、江戸時代、家康によって確立した宿駅制度のなかで、日本で最も重要な街道となりました。約3km、1時間30分~2時間のルートは、大名や外国人、文人墨客などの旅人が往来したコースです。

ルートの  
学び  
ポイント

R-0 道の駅 R-7 宇津ノ谷集落 P-3 お羽織屋 L-3 慶龍寺 R-2・AR-3 東海道 L-4 馬頭観音 L-5 雁山の墓 L-6 峠の地蔵堂跡 L-7 髭題目の碑 A R-2 つたの細道公園 R-8 木和田川砂防堰堤群 L-2 坂下地蔵堂 P-4 羽倉簡堂・蘿徑記 R-5 昭和三トンネル入口 R-6 平成トンネル入口 R-0 道の駅



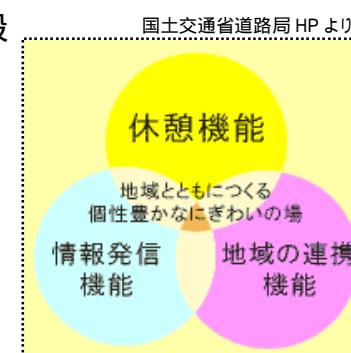
## R - 0 道の駅 道利用者の快適性を高める施設

- 道を使う様々な人が安心、快適に道路を利用するため平成5年からはじめられた制度です。
  - 右図の3つの機能を持った施設として整備されています。
- < 提供するサービス(道の駅の条件) >

駐車場・トイレ・電話は24時間利用が可能。  
案内人がいて親切に地域の情報を提供する体制。

### < 地域側施設の設置者(道の駅の条件) >

- 全国には868箇所(H19年8月現在)整備されており、静岡県内には19箇所あります。



地場産品が買えるぜい



## R - 7 宇津ノ谷集落

- 東海道の岡部宿と丸子宿<sup>あい</sup>の間の宿であった40戸ほどの集落です。静岡市の都市景観条例で「美しいまちづくり推進地区」に指定されており、地区では「宇津ノ谷地区美しいまちづくり協議会」を設立し、街道の面影のある町並みを保存しています。江戸末期~明治にかけての建物ものが多く現存しています。

## P - 3 お羽織屋

- 豊臣秀吉が小田原攻めの際、馬のわらじを取り替えるために寄った茶屋です。当時の主人は縁起の悪い「4」という数字を避け、わらじを3本足分だけ渡し、勝利を祈願しました。見事勝利を挙げた秀吉は主人の忠誠をほめて羽織を与えたことに由来しています。のちに徳川家康も訪れて茶碗を贈り、縁起の良い茶屋として参勤交代の大名なども立ち寄っています。

「道の駅」であった「端場(立場)茶屋」運送手段であった馬をつないで立ておくことから付いた名前です。通行する旅人のための休憩所で、地域の名物の菓子や果物とお茶を提供していました。ちょっと休んでお水を飲むのは無料であったようです。

## L - 3 慶龍寺

- 峠にあった地蔵堂の延命地蔵尊(弘法大師作伝)が祀られており、本尊は十一面観音菩薩。人肉を食べる鬼が峠に出没し、旅僧に化身した地蔵が十の玉にして退治した故事にちなんだ「十団子」は室町時代から伝わるものです。毎年8月23~24日の縁日には魔避けのお守りとして販売されます。

### 十団子の伝説

梅林院という寺の小僧が人を食べる鬼になってしまいました。宇都宮の素糴谷の地蔵に鬼退治を依頼。地蔵は僧の姿になり、鬼に姿を見せよといったとたん2丈(6m)の恐ろしい姿に。「汝に神通力があるならば我が手のひらに乗れるか」というと丸い固まりになりました。それを砕くと10個の粒となり、僧はそれを飲み込んだ...という伝説があります

丸いものには靈魂がこもるとい信仰があり、また「十」には、地蔵のことを表した経典が「十輪經」と呼ばれ、また、閻魔大王を祭るお堂を「十王堂」とよぶなど、死後の国の入口にいて地獄に落ちようとする人をわずかな信仰でも救ってくれる地蔵菩薩とは縁の深い数字です。

十団子は、岡部では10個の団子を竹串に指したものを7-8本束ねます。静岡市宇津ノ谷地区では、小さい団子の一連10個を9連にします。

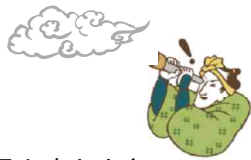
## R - 2 東海道

- ここは、1590年豊臣秀吉が大軍を通すために整備された道であり、標高170m、15度の勾配は、標高210m、勾配が24度の鶯の細道よりも数段通行しやすかったと思われます。
- 宇津ノ谷峠の東海道は髭題目近くで暗渠部分の側溝を含めて約4mの道幅がありました。
- 東海道とは徳川家康によって53の宿場とともに整備され、おおむね約6mの道幅があったようです。二代将軍家忠が一里塚を築きました。江戸時代の東海道の景観は松の木が街道の両側にあり、その木陰は旅行者を楽しませ、側溝も完備され、身分の高い人が通行する際は、住民が掃き清め、ゴミも少ない街道であったといわれています。

## AR - 3 東海道

AR-3- - 題材として扱われている

- 東海道中膝栗毛(1802)作者十返舎一九静岡市出身 江戸時代後期の滑稽文 江戸神田八丁堀に住む弥次郎兵衛と食客喜多八が江戸から京都、大阪へ旅行する様子を表した旅を題材にしたベストセラー。刺した十団子の話がでています。
  - 東海道名所図会(1797)作者 秋里籬島 東海道文献を精査した挿絵もある解説書
  - 歌舞伎の中の宇津ノ谷峠 「鶯紅葉宇都谷峠」河竹黙阿弥作 1856年に市村座にて初演。黙阿弥と四代目市川小團次のコンビを決定的にした演劇史上からみても重要な作品です。
- AR-3- - 絵に描かれている
- ・「東海道五十三次之内岡部(保永堂版)」歌川(安藤)広重(1797~1858)・「東海道五十三次之内岡部(行書)」歌川(安藤)広重(1797~1858)・「東海道図屏風」(17C)・「東海道分間延絵図」(1806)
  - ・「末広東海道」(1863)・「東海道五十三駅勝景」(1863)・「東海名所改正道中記 宇津の山下岡部」(1875)



## L - 4 馬頭観音

- 頭に馬の冠を載せている二体の観音様が特徴的。約200年前のもので、天保と明治の年号が見えます。
- 馬頭観音は、事故や病気で死んだ馬を弔うために飼い主が建てたものと思われます。色々な種類の石仏のなかで数多く、道端で目立つのが馬頭観音です。馬が最も重要な運送手段であった時代の人と馬との関係が伺えます。

## L - 6 峠の地蔵堂跡

- 宇津ノ谷の地蔵信仰の地蔵堂跡。明治42年に慶龍寺におろされた所、翌年一帯は大きな土砂崩れに会い、地蔵堂は土砂に埋まってしまいました。お地蔵さんのあらたかさは、これ以来いっそう強まったそうです。
- 地蔵堂の移転にあたっては秋葉山の常夜灯も一緒におろされています。

## P - 4 羽倉簡堂 蘿徑記 駿河の代官の嘆き？静岡県の名碑！

- 「蘿」はつた「徑」小道を記わします。
- 文政13年(1830年)から9年間駿府代官であり、歌人でもあった羽倉簡堂が文学的に価値の高い鶯の細道が廃道になっているのを嘆いて建立しました。文字は当時「江戸時代の三筆」といわれた市河米庵によります。道路整備における2度の移転を経て、現在の場所にあります。

## P - 5 通過した外国人

- ケンペル(ドイツ人医師)1690年 「日本誌」を表し、ヨーロッパにおける日本のイメージをつくりました。・駿河から安倍川、宇津ノ谷については地蔵や旅人の様子を詳細に表しています。
- ヴィルマン(オランダ商館医師)1652年 「ヴィルマン日本滞在記」を表す
- ツンベルグ(医師・植物学者)1776年 「ツンベルグ日本紀行」を表す
- ・道路の手入れが行き届いて、道幅も広く排水溝もあると書いてあったそうです。
- シーボルト(医師) 日本研究家「日本植物誌」「日本動物誌」を表し、欧州に日本ブームを引き起こしました。
- 1826年宇津ノ谷を通過して、記述を残しています。
- 朝鮮通信使：将軍がかわるたび国書をもち友好使者として訪れている。江戸時代には12回実施された。宇津ノ谷での記録はないが、清水区清見寺には多くの資料が残されています。



## R - 8 木和田川砂防堰堤群

- 1号から8号まですべて登録有形文化財
- 明治43年の豪雨による山腹崩壊を契機に、県が建設した石積砂防堰堤群です。
- 下流から上流に向かって一号、二号の順に八号堰堤まで配置され、立面形状から「兜堰堤」とも呼ばれており、最大規模は二号堰堤の堤長25mです。明治期の構造形式を踏襲しつつ、台形越流部という近代的技術が加味され、現在は周囲の緑が回復し、石造構造物も一体となって、渓谷の自然景観とよく馴染んでいます。

## AR - 2 つたの細道公園 以下の人の歌の板碑があります

- 藤原俊成(1114~1204年)平安~鎌倉時代の歌人。藤原定家の父。万葉集や古今集の伝統を踏まえつつ平安末期の無常観、抒情性の豊かな歌風を確立した
- 藤原定家(1162~1241年) 歌道の名門を確立し、後世の歌に大きな影響を与えました。新古今和歌集(1205年成立)「新勅撰和歌集」などを撰進。
- 鴨長明(1155~1216年)歌人、随筆家。「方丈記」の作者。
- 兼好法師：吉田兼好(1283~1350年)歌人、随筆家。「徒然草」の作者。
- 在原業平(825~880年)平安時代初期の貴族、歌人。六歌仙、三十六歌仙の一人。桓武天皇の孫で在原氏の五男で右近衛中将、別称在五中将とも言われます。
- 阿仏尼(1222?~1283年)鎌倉時代中期の女流歌人。紀行文「十六夜日記」の作者。
- 林羅山(1583~1657年)朱子学者、江戸幕府の土台となる制度に係わります。
- 下田歌子(1854~1936年)明治時代女流歌人、教育者でもあり「日本が一流の大国と成らん為には大衆女子教育こそ必要」と日本の女子教育に尽力。
- 片山静枝 現代の歌人

## L - 2 坂下地蔵堂 峠の地蔵信仰 鼻取り地蔵・稲刈り地蔵

- 農夫の牛が動かなくなった際、地蔵さまの化身の子供が現れて楽に動かしたといういわれがあります。
- 地蔵菩薩は、インドの大地の神の信仰に起源を持ち、中国に入り地獄に落ちて苦しむ人を浄土に導く仏様として、日本に伝わり、信仰を寄せる者は深い慈悲で接してくれるとして広まりました。
- 峠には「境」として境の信仰=峠信仰があり、地獄の入口で人を救う地蔵信仰とつながったようです。
- 宇津ノ谷には峠の両側に地蔵が祭られています。

## R - 5 昭和トンネルの道 R - 5 - 昭和トンネル

- 昭和トンネルは、昭和32年に着工し、34年に開通した844m×9m×6.6mのトンネルです。幅員が9mは我が国最大の断面であり、自動車交通の増大を見越して新たにつくられました。平成9年の平成トンネルの工事にあわせて補強し862mとなっています。

## R - 6 国道1号バイパス R - 6 - 平成トンネル

- 昭和44年に東名高速道路が開通し、国道1号の交通量は一時的に緩和されましたが、慢性的な交通渋滞を解消するために、昭和トンネルの南側に並行した平成トンネルを整備しました。
- 着工は平成2年、完成は平成7年、長さ881m×幅員11.25m×高さ6.58mのトンネルです